

榛原地域義務教育学校建築設計業務等委託 公募型プロポーザル方式による業者選定結果及び評価の公表

はじめに

令和4年度からグランドデザインを作成して進めてきた牧之原市の新たな学校づくりの第1弾となる「榛原地域義務教育学校建築設計業務等委託公募型プロポーザル」では、4者の方々から大変魅力的な提案をいただくことが出来ました。ここで改めて、応募者の皆様の深い見識から生み出された熱意ある提案と誠意あるプレゼンテーションに対し、選定委員会及び市を代表して深く御礼申し上げます。

今回は、プロポーザル形式でありながら、学校という施設に対する教育環境としての考え方、将来にわたる学びを支える建築計画、牧之原の気候風土と共存する環境計画、敷地特性を活かした造成計画など、多岐にわたる課題について提案いただくという、非常にボリュームのある内容でした。

そうした難易度の高い条件設定の中で、4案ものレベルの高い優れた提案をいただきましたことは、市としても誇りを持って本事業を進めていく自信となったことと思います。提案いただいた皆様に恥じぬよう、提案を受け止め、実現に向けて進めていただきたいと審査委員一同願っております。

榛原地域義務教育学校建築設計業務等業者選定委員会
委員長 倉斗 綾子

1 業者選定の結果

業務名	令和 6 年度 榛原地域義務教育学校建築設計業務等委託
優先交渉権者名	株式会社梓設計 横浜支社

2 候補者選定の評価

順位	参加者名	総合 評価点	内訳		
			企画提案 テーマ 1	企画提案 テーマ 2	プレゼン ヒアリング
1 位	整理番号 1 株式会社梓設計 横浜支社	186	107	61	18
2 位 (次点)	整理番号 2 株式会社山下設計	181	111	57	13
3 位	整理番号 4	170	105	49	16
4 位	整理番号 3	129	80	39	10

3 審査講評

今回の審査会での審査は、企画提案書の内容及びプレゼンテーションにより審査委員会の合議にて最終交渉権者及び次点を選定しました。

4案それぞれにレベルが高く、新しい時代の教育環境として各者が考えるアイデアがふんだんに盛り込まれており、最終的には僅差での選定となりました。

【整理番号1】

プランタイプとしてはクラスター型フィンガープランの基本的な学校建築の骨格を持ちつつも、各クラスター内部の柔軟性、環境面への配慮、実現可能性等の面でバランスの良い提案でした。

さらに、プレゼンテーションでは、各委員からの質問に的確に誠意ある回答がなされたことが、共にプロジェクトを進めるパートナーとしての信頼感につながり、最優秀案として選定されました。

今後は、将来の学びのための新たな学習環境の在り方、環境面では ZEB 化の費用対効果だけでなく教育環境としての質などに対する更なる配慮や提案がされることを期待します。

【整理番号2】

扇形2階建てのリニアな空間構成による明快なプランが評価されました。地域利用を想定するエリアと教室エリアをレイヤー状にゾーニングしている点や、クラスターの中央にオープンスペースを置いた中廊下的に構成しつつも、間仕切りや建具による柔軟な運用により、教室と廊下（オープンスペース）という従来の空間を超えたまったく新しい空間の可能性が大きな魅力として評価されました。コンパクトで無駄のない構成でありながら多様な場所が生まれていることや、パッシブな学習環境の質の確保など、細やかで丁寧な検討の経緯が感じられる案でありました。

しかし、プレゼンテーションでの説明と企画提案の内容にやや整合性を欠いていたことや、環境設備面、構造面でのコストコントロールの対応力等の点でやや最優秀の案に劣る点が見られ、次点と評価されました。

未来の学校の在り方の一つとして魅力的な提案であったため、更なる進化を期待したいとの意見も多くありました。

【整理番号3】

クラスター型のプランを、中庭を囲む8の字型のユニットで繋ぐ回遊性のある優れた動線計画による学校建築の提案でした。これまでの経験やノウハウを活かした誠実で実現性の高い提案となっていました。これからの学びについてどのように考え、チャレンジしていきたいかという思いが伝わらず、ワクワクする学び舎になりうるか、という点で評価が伸びませんでした。

また、ラーニングコモンズなどについては、大きな吹き抜け空間の利用方法や、音、温熱環境等への疑問も残りました。

プレゼンテーションでは、建築設計と設備設計の統一感、全館空調の考え方や実現性についても審査委員会で議論になりました。

【整理番号4】

雁行型配置とすることで生まれる空間のズレをさまざまなスケールの学習空間として構成している点で魅力的な提案でした。教室周りの小さな空間から学年ラウンジ、メディアスペースなどの大きな空間までグラデーション状に配置される考え方はワクワク感があり、期待される一方で、ひと続きの大空間をそれぞれどのように使い分けて学習に活かせるか、という具体的なイメージが湧きにくかったことなどが懸念点となりました。

環境面では地域特性を読み解き設計に反映させようとする意欲が最も高く、ランニングコストについては利用者（教職員）への負担を低減しようとする姿勢が示されていた点も高く評価されました。

一方、雁行配置や大小さまざまな空間の組合せにより、ほどよいスケール感に見える魅力的な平面図に対して、総3階建てになったときの全体ボリュームが大きすぎる懸念や面積的にも持て余しそうな印象がありました。

敷地の造成計画では、現地の状況を細かく調査され、調整池の機能を独自に模索している点が評価されましたが、一方でグラウンドを1箇所を集約していることなどから、小中一貫校としての使い勝手やグラウンドが利用できない期間についての配慮が十分ではない印象が残りました。

プレゼンテーションでは、誠実かつ熱意のある説明に信頼感が感じられ、高く評価されましたが、僅差で最優秀、次点に及びませんでした。